

戦略的機能イノベーション研究所

Centre for the Research of Emergent functions in Artifacts and Technological Enterprises

研究所の概要

■ 背景および全体構想

現在、国内の製造業、サービス産業などにおいて、つくり手側の多くの企業が方向性を見失いつつあり、国際競争の中で継続的に発展していくことに不安感を持つ傾向が出てきたことは否定しきれない。しかし、そのための国内企業の活動を中心とする学術的知見の構築に関する議論は薄めであったといわざるを得ない。

本研究所の方向性としては、このような状況の中で有効性があると考えられる、学術的知見に基づく議論を進め、その蓄積に努めていくものである。

これらから得ることができる知見は、以下のメリットがあると考えられる。

- ・これまで薄めであった国内社会メカニズム・国内商流慣行を基本とした理論構築
- ・方向性を見失いつつある国内産業・国内企業に対する具体的方向性の提示
- ・国際的に見た日本の産業の特性の理解

■ 目的

本研究所は、以下のような視点に基づく議論を進め、そこから得られる知見を集約していく。

- ・産業別の生産物特性
- ・産業別の生産プロセス特性
- ・国内の企業に関する強みや弱み
- ・製品価値創造および価値獲得
- ・サービス価値創造および価値獲得
- ・ソリューション価値創造および価値獲得

このような形で集約された内容を前提にし、対象を製品やサービスを始め人工的に創られるものを出来るだけ広くとらえながら、創られるものの特性とつくり手の特性を抑えつつ、合理性と感性の両面から「目指すべき創出方法」を議論していくものである。



所長

吉田 敏

YOSHIDA Satoshi

キーワード

Emerged Function（発生機能）、
設計情報分析、人工物特性の把握
感覚的価値の再現可能性

令和3年度の実施項目

(以下、パンデミックで年度内の修正も辞さないものとする)

- ・ **学内単独で進める内容**

本研究所の主要な目的の一つである、各製品分野別・各産業分野別の設計上の特性を、昨年度に引き続き、設計者の視点から理解することを進める。これは、基本的には複数年度にわたって調査、分析、考察を展開していく予定である。

- ・ **国内他機関研究者と協働で進める内容**

不動産、家具、建築関連製品、医学領域などを対象に、当該領域の国内企業および大学に協力を求めながら、学術テーマを共有できる他機関の研究者と議論を進めていく。

- ・ **海外他機関研究者と協働で進める内容**

国内の考え方や視点による偏りや思い込みを払拭するため、国際的に影響力を持つ英国の他機関の研究者と国際間比較を中心とした議論を進める。

令和2年度の研究活動内容及び成果

2020年に世界的なパンデミックが起これ、様々な生活や産業などについて大きな影響が出ている。社会全体が、求める内容を大きく変化させながら、新しい環境を作り上げている面がある。このような中で、英国のメンバーの活動が難しいために、当初の計画の方向性を修正し、国内中心の活動を進めた。具体的には、国内を代表する2つの企業に協力いただき、不動産領域とオフィスファニチャー領域におけるビジネスモデルの戦略性について議論を進めてきた。内容は継続されているが、査読論文2編をはじめ、研究の成果をまとめてきた。特に、他大学の経営領域の研究者との共同研究も進め、工学としてはあまり例のないことであり、萌芽的な試みとして意義がある活動となっていると考えている。

【学会発表】

なし

【論文発表又は著書発行】

査読論文2編

- 吉田敏、藤田大樹、「建築に対するユーザーの活動の設計思想から見た要求の把握手法の開発、—COVID-19の影響に拠るテレワークの傾向と業務構成要素相互依存性についての考察—」、日本建築学会論文集（2021年2月採択決定）
- 吉田敏、「日本の建築領域の産業特性に関する課題に関する一考察」、日本建築学会論文集（2021年2月採択決定）

【作品等】

なし

【科学研究費補助金への応募状況、採択状況】

・科学研究費基盤研究（B）、5年間のプロジェクトの4年目

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

なし

【受賞等】

なし

【その他社会貢献】

なし